

平成4年4月25日

第4回アゼリアフェスティバル

『アゼリア名所づくり』

池袋本町公園に全国のツツジを植樹

25日、豊島区立池袋本町公園(池袋本町1-27)を、全国13市町村から持ち寄られたツツジで彩どる『アゼリア名所づくり』が開催された。今年で4回目を迎える『アゼリアフェスティバル』の一環として、また、豊島区制60周年を記念し、同フェスティバル実行委員会が主催。豊島区及び(財)豊島区街づくり公社が後援。ツツジは『豊島区の花』。『アゼリア』はツツジの洋名。

この日のイベントには、北海道西興部村、青森県大鰐町、秋田県本荘市、山形県長井市、群馬県館林市、茨城県笠間市、栃木県那須町、静岡県伊豆長岡町、長野県岡谷市、愛知県大府市、愛媛県大洲市、長崎県諫早市、熊本県大津^町南^町といたいたずれもツツジの名所として名高い13市町村が協力。

さらに、その内の笠間市、伊豆長岡町、大府市、諫早市、大津^町南^町からは、それぞれの市町村代表として、『花と緑の親善大使』が会場を訪れ、各市町村長からのメッセージを読み上げた後、豊島区長(加藤一敏)らとともに、記念植樹を行った。

豊島区とツツジの関わりは古く、明暦2(1656)年に遡る。現在の豊島区駒込にあった伊賀・藤堂家下屋敷に出入りしていた植木職人・伊藤伊兵衛(いとういへい)のもとに、3本の『霧島つつじ』が将軍家から下げ渡された。江戸にツツジが持ち込まれたのはこの時が初めてであったと伝えられている。

当時、豊島区(主に現在の駒込)には、他に類を見ないほど大規模な『園芸センター』が形成され、多くの植木職人たちが江戸市中へ向けて鑑賞用の植物を生産・出荷していたが、伊藤伊兵衛は、その中でも指折りの植木職人であった。

その後も、伊兵衛のもとには、日本各地から様々な品種のツツジが届けられることになったが、伊兵衛はそれらの研究・交配を重ね、新しい品種を数多く生み出した。それが鑑賞用の植物としてあつという間に江戸市中に広まり、現在に至っている。

現在の豊島区では、急激な都市化の波によって、江戸時代の『園芸の里』の面影を見ることはほとんど不可能だが、毎年この時期にJR駒込駅ホームの土手を鮮やかに埋め尽くすツツジがその名残りを今に伝えてくれる。これは、明治43(1910)年の同駅開設を記念して、地元の植木職人たちが持ち寄って植えたものが最初である。

今回の『アゼリア名所づくり』は、このような先人たちの業績や歴史的背景などを踏まえ、多くの区民に愛され親しまれる新しい『ツツジの名所』を作ろうという初めての試みである。

なお、明日26日(日)には、会場を池袋駅西口駅前の区立池袋西口公園(西池袋1-8)に移し、午後1時から3時まで、花と緑に関するクイズや歌などの楽しいアトラクションや、ミニ園芸セット(2500セット)の無料配布などが行われる。

問合せ (財)豊島区街づくり公社内 アゼリアフェスティバル実行委員会事務局

第4回アゼリアフェスティバル

『アゼリア名所づくり』

池袋本町公園に全国のツツジを植樹

予定どおり実施されましたので、以下の点追加させていただきます。

1. 来場者(区民)数 約1500人 (親子連れからお年寄りまで)

2. 記念植樹の内容

①記念植樹は、豊島区が用意した高さ約1m50cmのツツジ2本(すでに咲いている)に、区長をはじめ関係者らと、5自治体の代表(いずれも女性)が、スコップで土をかけました。

②13市町村から各1~2種3本程度、合計約40本のツツジは、前もって植えておいたものに、区長とそれぞれの代表が水をかけました。

③今日の時点で、ほとんどのツツジは花をつけています。(一部つぼみの状態あり)

④セレモニー後、来場者には花鉢(1200鉢)が、配布されました。